

出張調査報告書

平成27年2月23日

松伏町議会議長 山崎善弘様

会派名 新自民クラブ

代表者氏名 莊子敏一



下記のとおり先進地視察をしたので届け出ます。

記

1 期 日	平成27年2月13日から平成27年2月15日
2 視 察 地	(1) 佐賀県神崎市役所 (2) 佐賀県 西九州大学(神崎市) (3) 福岡県 久留米市 桜花台クラブ (4) 大阪府 大阪市
3 視 察 目 的	(1) 大都市近郊地の特産品開発及び販売事業 (2) 総合型地域スポーツクラブへの障害児・者の所属をめぐって (3) ノーマライゼーション・スポーツを実践している総合型地域スポーツクラブの運営 (4) 避難所・仮設住宅の被災者支援
4 視 察 者 氏 名	莊子敏一
5 視 察 結 果	行程、視察結果は別紙のとおり

政務調査報告書

(神崎市・久留米市視察、大阪市研修)

1. 大都市近郊の特産品開発及び販売事業

■ 日 時 平成27年2月13日(金) 13時30分~15時30分

■ 会 場 佐賀県神崎市役所

■ 応対者 議会事務局 副課長 八谷美穂子 氏
商工観光課 観光コーディネーター 執行真知子 氏
政策推進室 副課長 久保山直人 氏
農政水産課 副課長 小柳一寿 氏

(1) 神埼そーめん 及び 関連商品



「神埼そーめん」は長い歴史があり最盛期には300件ものそーめん工房があったが近年、販売量が減少していた。そこで、ヤクルトと販売提携(左の写真)をして全国展開を図っている。現在では、年間販売量の3分の2をヤクルトが占めている。

神崎市では、観光とそーめんを融合させ後押しをしている。非正規職員の「執行氏」が年間75万円の販売促進費を持ちPR活動をしている。地元マスコミと太いパイプを持ち、たびたび特集の番組をTVで放映した実績があり、大きな効果を上げている。

関連商品の、そーめんコロッケ、そーめん懐石などの開発も進め、吉野ヶ里遺跡などに訪れる観光客に喜ばれている。

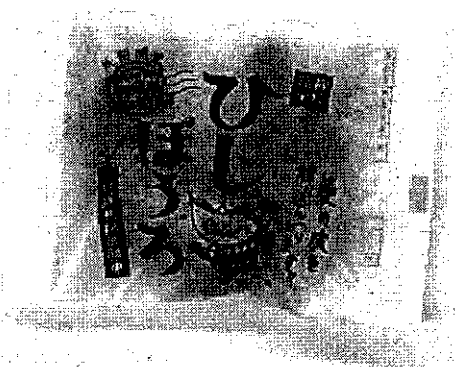
(2) もち米



九州筑紫平野は日本有数の米どころであり、2毛作が盛んにおこなわれている。神崎市では、「サトウの切り餅」で知られる新潟市のサトウ食品と長期契約して出荷している。うるち米と違い、出荷価格に大きな変動がなく農家の安定収入に寄与している。

(佐賀県産米使用と書いてあります)

(3) 和菱焼酎 及び ひしぼうろ



神崎市では、田や沼地にある「和菱」の実を使って焼酎の開発を進めている。うるち米の価格が低迷する中、新たな商品を開発するために、担当者は各地の酒造メーカーを回り研究を続けている。まだ価格が高いのと量産できていないので道半ばだが、今後が期待される。

今まで捨てていた「和菱」の皮に、ポリフェノールが多く含まれることに目をつけ、地元の西九州大学と連携して「ひしぼうろ」の商品化に成功した。

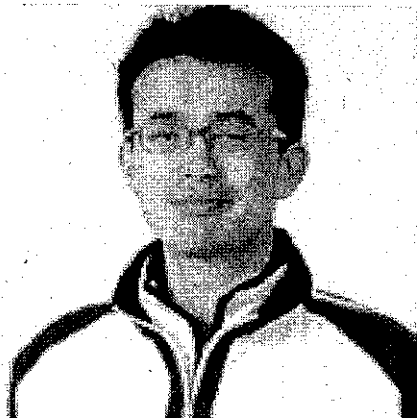
(4) 神崎あーさい

地元農家の高齢化が進み、農作業の軽減化を図るために、神崎あーさいの栽培に力を入れ始めている。あーさいは軽量なので高齢者でも扱いやすいのと、他では栽培していないので差別化も狙える商品である。レシピの開発も併せて行い販売を進めている。

- 考察 神崎市の特産品関連事業が成功している要因に2つ上げたい。1つは担当者の熱意と行動力である。観光コーディネーターの執行氏は臨時職員だが、1年ごとに契約を更新し15年間同じ仕事に携わっている。また、商品開発担当者も積極的に研鑽をつみ仕事に取り組んでいる。2つには、企業・大学との協力である。大きな販路を持つ企業、違う目を持っている研究者。この連携が出来ている上で特産品事業を進めているので成功しているのだろう。

2. 総合型地域スポーツクラブへの障害児・者の所属をめぐって

- 日時 平成27年2月13日(金) 16時00分~17時30分
- 会場 西九州大学 神崎キャンパス
- 応対者 健康福祉学部 准教授 山田力也 氏

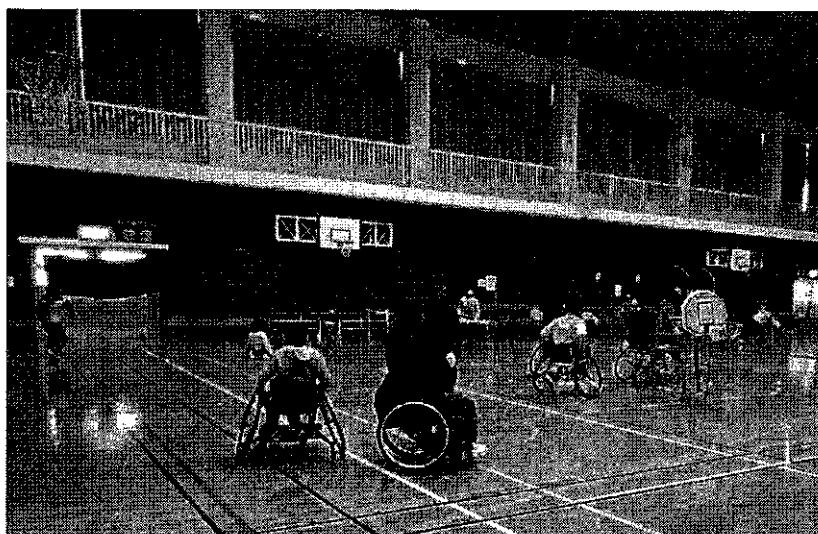


山田准教授は福祉の観点から障がい児・者の運動について研究されている。その研究の一端を研究室でお伺いした。

3. ノーマライゼーション・スポーツを実践している総合型地域スポーツクラブの運営

- 日時 平成27年2月14日(土) 9時00分~17時00分
- 会場 久留米市総合型地域スポーツクラブ 桜花台クラブ
- 対応者 クラブマネージャー 井手 浩 氏
スタッフ 介護支援専門員 吉田いきみ 氏
スタッフ パラスポーツ指導員 佐山 篤 氏
スタッフ バルセロナパラ選手 岩崎満男 氏

(1) 体育館事業



午前中は体育館で、高齢者・小学生・障がい者がそれぞれにスポーツを楽しんでいた。高齢者のグループは、リーダー役が中心になってソフトテニスに励み、小学生はスポーツ推進委員が技術指導をしながらソフトテニスのラリーを行っていた。障がい者は、スタッフや大学生と共に車いすバスケットボールの練習を行っている。今日は別々だったが、一緒に同じ種目をプレーすることもあるようだ。

(2) テニスコート事業



午後はテニスコートに場所を移し、小学生と障がい者がテニスの練習を行っていた。コーチはバルセロナパラリンピックに出場した岩崎氏で本格的な練習なのには驚かされた。午前中から参加している人は、お昼をみんなで食べるのが楽しみだと話してくれた。

- 考 察 クラブの運営は会費11万円と、久留米市からの補助金75万円、久留米市からの委託費17万円などで賄われている。支出は報償費、備品購入費、負担金などがあり厳しいようだ。クラブマネージャーには月5万円の賃金が支払われているが、そのお金もクラブの運営経費に回しているのが実態のようだ。クラブが回っているのは、井手マネージャーをはじめスタッフ、ボランティアの献身的な協力があるからだった。
障害者の受け入れが盛んな理由は、久留米市からの委託事業があるからで、市の側面的な支援が必要なことがわかった。

4. 避難所・仮設住宅の被災者支援

- 日 時 平成27年2月15日(日) 13時00分～16時30分
- 会 場 大阪市 新大阪丸ビル新館506会議室
- 主催者 日本防災士会
- 講 師 NPO 法人レスキューストックヤード常務理事 浦野 愛 氏
阪神淡路大震災、東日本大震災で現地に入り、支援活動を実践してきた講師が、避難所や仮設住宅で震災関連死を防ぐノウハウを教授してくれた。
また、障がい児・者のために避難所に福祉非難スペースを設置することや障害に合わせた福祉避難所の運営の難しさも紹介してくれ、避難所運営のノウハウをもっと深く研究する必要性を感じた。

神崎市・久留米市視察、大阪市研修 行程表

平成27年2月13日(金)

06:00 自宅出発
06:44 北越谷駅発 中目黒行き
06:46 越谷駅乗換 中央林間行き
07:08 北千住駅乗換 中目黒行き
07:24 上野駅乗換 JR 鎌田行き
07:43 浜松町乗換 東京モノレール
08:08 羽田空港 第2ターミナル
09:00 羽田空港発 (ANA 245便)
11:30 福岡空港発 地下鉄 筑前前原行き
11:36 博多駅着
(昼食)
12:05 博多駅発 鹿児島本線 荒木行き
12:53 鳥栖駅乗換 JR 長崎本線 備前鹿島行き
13:14 神崎駅着
13:30 神崎市役所にて視察 (2時間00分)
15:50 西九州大学 山田力也准教授訪問
18:00 ホテル神崎温泉
(宿泊)

2月14日(土)

08:00 ホテル神崎温泉発 タクシーで移動
08:36 神崎駅前通りバス停 西鉄バス
09:20 西鉄久留米駅
10:00 久留米市地域総合型スポーツクラブ 桜花台クラブ
体育館でのプログラムを視察 (2時間)
13:00 テニスコートでのプログラムを視察 (2時間)
15:00 休憩室で運営内容の講義
17:30 久留米ワシントンホテルプラザ
(宿泊)

2月15日(日)

09:24 久留米駅発 (さくら544号)
12:24 新大阪駅着
13:00 防災士会主催研修会 (3時間30分)
「避難所・仮設住宅における被災者支援」
17:00 新大阪駅発 (のぞみ38号)
19:33 東京駅着
東京駅～上野駅～北千住駅～北越谷駅～松伏バス停～自宅
21:15 帰宅